

審 議 事 項

堺市指定文化財 指定候補調書（案1）

名称 住吉大社宿院頓宮の祓神事（荒和大祓神事）
所在の場所 堺市堺区宿院町東2丁1-6

解説

住吉大社宿院頓宮の祓神事（荒和大祓神事）は、かつては旧暦6月晦日、現在は8月1日に住吉大社の神輿を堺の宿院に迎え、頓宮境内の飯匙堀で行われている祓の神事である。

飯匙は、飯を盛るための「しゃもじ」のことで、堀の形が「しゃもじ」に似ていることから飯匙堀、または飯匙の池と名付けられたとされる。貞享元年(1684)刊行の『堺鑑』に「六月晦日に神輿を宿院の飯匙堀へ遷玉ふも干珠をすゞしめの為なり」と記されているのが飯匙堀の初見で、海幸山幸神話の山幸彦（彦火火出見尊）が所持していた潮干珠が埋められているとも伝えられている。

現在の飯匙堀は、中央に注連を張った岩が置かれた正方形に近い空堀である。堀の西側と東側にそれぞれ石鳥居が建てられおり、堀を含んだ神域を囲うように玉垣が設けられ、宿院町公園から神域内への入口に1基の石鳥居が建てられている。祭りの当日には宿院町公園との境の石鳥居に茅の輪がくくりつけられる。

8月1日夜の荒和大祓神事では、最初に祓主の神職が荒和大祓の詞を奏上し、次に参列者がそれぞれ手に持った茅草で身体を撫でた後、息を3度吹きかけて草を半分に折る。続いて神職が前に進み出て、大麻のついた榊の枝で北側の宮司ほかの祭員、南側の参列者、東側と神域外にいる参拝者たちをそれぞれ祓う。3人の神職が参列者の茅を集め、集めた茅を唐櫃の中に納める。最後に祓主が前に進み、祓物の白布(晒)を8つに引き裂く。祓いに使った榊の枝と茅も2つに折り、八つ裂きにした布と一緒に白い紙で包み、唐櫃に納めて、神事は終了する。

本神事は、摂津国一の宮で大阪市住吉区に鎮座する式内社住吉大社の「住吉祭」の一連の神事として催行されている。現在の住吉祭は、新暦7月上旬におこなわれる斎女宣状式から始まり、海の日におこなわれている汐汲神事、神輿洗神事を経て、7月31日に住吉大社境内で催行される夏越祓神事(大阪府選択無形民俗文化財「住吉大社の

夏越祭」)、8月1日の神輿渡御(通称「おわたり」)でクライマックスを迎える。

神輿渡御では、午後に住吉大社から大神輿が出発し、大阪市と堺市の境にあたる大和川で舁き手が大阪側から堺側へ交代する「ひきわたし」が行われる。日没頃に堺の宿院頓宮に到着すると、住吉神の宿る船神輿と鳳輦は拝殿内、神輿は拝殿前に奉安され、頓宮祭が営まれる。そののち飯匙堀での荒和大祓神事が行われ、神事終了後、鳳輦や神輿等は住吉大社へ戻り、還輿祭が催行され、住吉祭全体が終了となる。

住吉三神(底筒男命、中筒男命、表筒男命)は、記紀神話によれば伊邪那岐命が黄泉国から地上に帰った際、禊ぎをして清めたときに現れた「祓」を司る神とされている。天平三年(731)から延暦八年(789)の間に成立したとされる『住吉大社神代記』では「六月御解除」の記事に「開口水門姫神社」(現在の開口神社に比定)とあり、古代より堺の地と「祓」の関連性がうかがえる。また、中世の記録では、堺荘は住吉社領とされることから、「祓」を司る住吉神の御神霊を住吉から神領地である堺へ迎え、町や人びとの穢れを祓い、無病息災を祈ることが祭の本質であったと考えられる。

飯匙堀での祓の記録については、重要文化財『大寺縁起』(元禄3年・1690)に「年毎のミな月つこもり(註・水無月晦)、摂津の国住吉より、大明神御幸ありて、此池(註・「飯匙の池」)のほとりにて、天地一円相とて、貴き御祓あり」と見えるだけでなく、「しゃもじ」のような飯匙堀が描かれており(図4)、遅くとも江戸時代には飯匙堀での祓が行われていたことがわかり、300年以上にわたり現代まで受け継がれる神事であることがうかがえる。

以上のように、住吉大社宿院頓宮の祓神事(荒和大祓神事)は、住吉祭・神輿渡御を構成する一連の神事のうち、祭礼の本質ともいべき「祓」を司る神事であり、近世以前にその起源を持ち、遅くとも近世には「飯匙堀」という歴史的空間で「祓」がおこなわれていることが確認できる点は非常に貴重である。

このようなことから、本神事は、堺の人々の信仰や生活文化の基底を成す祭礼・風俗慣習として本市にとって重要であり、歴史的価値が高いことから、無形民俗文化財として、保存継承を図ろうとするものである。

【参考文献】

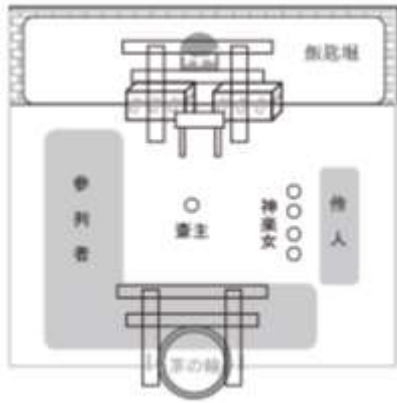
『住吉祭・神輿渡御と堺(住吉祭・神輿渡御記録作成・調査研究事業報告書)』堺市地域文化遺産活性化実行委員会、2017年



(図1) 堺側に上陸する神輿



(図2) 頓宮到着時の神輿振り



(図3) 飯匙堀での荒和大祓神事の模式図とその様子



(図4) 重要文化財 大寺縁起 元禄3年(1690)、開口神社所蔵

図版はすべて上記報告書より引用

宿院頓宮位置図



堺市指定文化財 指定候補調書（案2）

種 別	史跡
名 称	北村古塁（陶器城跡）
所在の場所	堺市中区陶器北 659 番の一部、660 番、661 番-2、753 番-2 の一部
所有者の氏名（名称）及び住所	個人
面 積	2,468 m ²
時 代	室町時代～江戸時代
解 説	

北村古塁（陶器城跡）は泉北丘陵にあり陶器川の上流に位置し、南北 200m、東西 180 mにわたる中世の城館跡「陶器城跡（北村砦跡）」として周知された遺跡である。周辺には、小角田(こかんだ)遺跡や陶器南遺跡などがあり、12～15 世紀の「屋敷」や「居館」と推定される遺構群から成る中世の集落跡が知られている。

文献史料には、正平 7 年（文和元年、1352）6 月付の「和田蔵人助氏軍忠状」（『和田文書』）と「淡輪彦太郎助重軍忠状」（『淡輪文書』）に「陶器城」の表記がみえ、本遺跡との関連が注目される。

遺跡の現状は、一辺約 14.0～29.5m、高さ 4.2～5.7mの方形土壇と、高さ 1.3～2.6 mの土塁が残るが、これらは府下の城館・城郭研究の基礎資料である文政元～2 年（1818～1819）に岸和田藩士の浅野秀肥が纏めた城郭図面集『和泉国城館跡絵図』に収められた「大鳥郡陶器荘北村古塁之図」の本丸跡や土塁の一部と考えられる。この絵図には、中央の本丸跡が堀と土塁を巡らせた長方形の曲輪に対角に挟まれる構造や、各所の寸法、周囲の地物なども描かれており当時の詳細を知ることができる。

これまで付近で実施した小規模な調査成果を絵図と照合し古塁全体の復元を試みてきたが、さらに古塁の築造時期や遺構の残存状況を把握するため、平成 30～令和 2 年度（2018～2020 年度）にかけて現地測量と発掘調査を実施した。

発掘調査では、曲輪の土塁と堀、本丸跡の盛土と堀を確認した。本丸跡の東側に残る土塁は、14 世紀以降に高さ約 1.2mの規模で築かれ、江戸時代には現状まで拡張されたとみられる。土塁北面の「ホリ田」にあたる場所では、15 世紀には掘られ 18 世紀以降に埋められた幅 7.6m、深さ 2.4mの堀跡を確認した。

絵図の本丸跡北側の「隍」（ほり）「三四尺或壹丈」にあたる場所では、15 世紀後半には存在し、18 世紀頃に再掘削と埋め戻しがなされた、幅 2.9～3.5m、深さ約 2.0mの堀跡を検出した。

本丸跡は、一辺 28.8～29.8m、高さ約 5.1mほどの四角錘台の土壇である。本丸跡に先行する堀が 15 世紀後半以前に設けられ、その後 18 世紀までの間に本丸跡が築かれたと考えられる。そして、18 世紀頃には再掘削と埋め戻しがなされる。本丸跡の盛土下

に古墳など先行する遺構や、石垣など外装施設は認められず、絵図に描かれた「東西南北凡拾三間餘」の姿がほぼ保たれていることが明らかになった。

結果、北村古塁（陶器城跡）は絵図に描かれた構造物の位置や寸法が地上と地下に良好に残っていることを確認するとともに、北側の曲輪は南北約 125m、東西約 75mの長方形に、南側の曲輪は南北約 120m、東西約 95mの長方形に復元し得る。

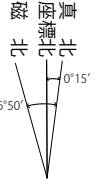
以上により、北村古塁（陶器城跡）は 15 世紀に堀や土塁が築かれ、18 世紀頃に土塁の拡張や堀の再掘削がなされた城館跡で、後に全容が絵図に描かれ、現在はその一部が良好に遺存することが判明した。これらは文献上の「陶器城」に直ちに比定できないが、市内に中・近世の城館または陣屋と伝わる遺構が少ない中であって、一部であっても『和泉国城館跡絵図』に描かれた規模・形状を正確に留めている点では極めて貴重であり、地域史の一端を物語る遺跡としても非常に価値の高いものである。

今回は地上遺構が現存する 2,468 m²を史跡に指定し恒久的な保存を図るものである。

【参考文献】

- ・堺市 2022『陶器城跡（北村砦跡）発掘調査報告書－第3・4・5次調査－』堺市文化財調査報告第53冊
- ・堺市教育委員会 2007『平成14・15年度市内遺跡立会調査概要報告』堺市文化財調査概要報告第107冊
- ・堺市役所（編）1971『堺市史』続編 第1巻
- ・中西裕樹 2015『大阪府中世城館事典』図説日本の城郭シリーズ② 戎光祥出版株式会社
- ・福島克彦 2008『『和泉国城館跡絵図』と城館研究－鬼頭文庫旧蔵絵図を中心に－』『岸和田古城から城下町へ－中世・近世の岸和田－』上方文庫34 和泉書院

陶器城跡史跡指定範囲図



X=-164420

X=-164420

X=-164440

X=-164440

X=-164460

X=-164460

X=-164480

X=-164480

X=-164500

X=-164500

Y=-43640

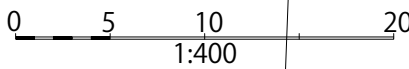
Y=-43620

Y=-43600

Y=-43640

Y=-43620

Y=-43600



北村古墓（陶器城跡）位置図

